

東海大の提案取り入れたマップ完成
地域色分け、周遊コースも

町民有志でつくる能登町地域活性化推進協議会は、東海大観光学部と協力して「NOTOも〜っと！ 能登町まっぷ」を作製し公共施設を中心に掲示しました。

昨年8月には同学部の服部泰ゼミが町で合宿。A1判の地図では、ゼミ生からの「地域ごとの統一感がない」という指摘から、町を4区域に色分けし、各エリアの周遊コースの例も示しました。町内の温泉施設や特産品なども写真を交えて紹介しています。



国民宿舎能登うしつ荘に掲示された「能登町まっぷ」

段ボールコンポスト
循環型社会の構築をめざして

生ゴミを減量・堆肥化させる「段ボールコンポスト」作りの出前講座が9月4日、上長尾集会所で行われ、上長尾お楽しみ会の14人が参加しました。

能登森林組合能登支所の職員が指導し、参加者らはメモを片手に真剣な表情で作製に取り組みました。お楽しみ会代表の端博美さんは「難しそうにイメージがあったが手軽に作る事ができた。畑にまく日が楽しみ」と話していました。



真剣な表情で段ボールをのぞき込む参加者

10年ぶりに八の田地区のキリコを巡行させる星稜大生たち



金沢星稜大学木村ゼミ 祭りを応援
八の田キリコ 10年ぶり巡行

瑞穂の日出森神社の夏祭りは8月20日から行われ、金沢星稜大学の学生33人がキリコを10年ぶりに巡行させ、住民とともに豊作を祈りました。

参加したのは、同大学経済学部木村正信准教授ゼミの2、4年生。八の田地区の各家庭で親戚や友人をもてなす風習「よばれ」で住民と交流した後、午後9時半から1時間半、高さ6mのキリコを担いで、おほらいをしながら神社まで歩きました。

神輿に玉ぐしをささげる漁業者



羽根・さざえひらいまつり
海に感謝し、豊漁願う

羽根の八幡神社で9月13日、さざえひらいまつりが行われました。サザエを神前に供える祭りで、約40年前には松明をかがげて浅瀬に出かけ、文字通りさざえを拾う祭りだったそうです。

拝殿の入口側、海に面した方向に神輿が置かれ、神事は海に向かって進められました。神職による祝詞に続き、氏子らが玉ぐしをささげて海の恵みに対する感謝と、今後の豊漁を願いました。

小木中・柳田中 イカ料理教室
イカ料理でコミュニケーションを図る

里山と里海をつなぐ柳田中・小木中の交流事業は今年で2年目。8月23日には、小木活性化センターで、小木港で水揚げされたイカを使った料理教室が開かれました。両校の3年生計38人が参加。生徒たちは、町食生活改善推進協議会会員から包丁の入れ方やさばく方向、料理の手順など指導を受けながらスルメイカ60匹をさばきました。メニューはイカのいしりごはん、イカのめつた汁、イカハンバーグ。生徒たちは協力しながら調理を楽しみ、完成した後はおいしそうに味わっていました。今後は、久田和紙の卒業証書作り体験を通して交流を図る予定です。



◀食生活改善推進員の指導を受けながら調理が進む

▼全員が1杯ずつ、イカをさばいた



東京・丸の内朝大学 能登舞台の講座閉講
里山の暮らし体感ツアーを提案

まちづくりや地域おこしを学ぶ市民大学「丸の内朝大学」で、能登を素材にした講座の最終プレゼンテーションが9月11日、東京・丸の内で行われました。

8月に黒川地区でフィールドワークを行った受講生グループは、多くの産業を生み出してきた庄屋を通して里山の暮らしを体験するツアーの企画案を発表。10月11日には輪島市で地元側が逆プレゼンを行い、地元住民と受講生との協働による実現を目指します。



天領庄屋「中谷家」を核としたツアーを提案する受講生

森さん(左)の指導を受け、にわか絵を描く留学生



第26回ジャパンテント
祭り文化にわか絵作りに挑戦

日本で学ぶ世界各国の留学生が石川の地に集う「ジャパンテント」は8月22日に開幕し、能登町には9人の留学生が25日まで滞在しました。

鶴川の森進一さん方にホームステイした留学生2人は、「にわか祭」を彩るにわか絵作りを体験。元になわか絵師の森さんが「準備の苦勞や住民の祭りにかける思いを伝えたい」と考えて企画したもので、縦横2mの和紙に描かれた武者絵に色づけをしました。

ま
ち
の
出
来
事

能登町の未来の姿は 13人の瞳に映る



ひのした ゆうき
樋下 勇輝さん
(松波中3年)

【質問】 コミュニティバス
・白丸地区の通学に時間がかかる。コミュニティバスの導入はできないか。
【町長】 白丸地区は既存バスと競合するため難しい。統合や路線廃止などで、地区によっては通学の形態が変わったところもあることから、通学の安全を第一に考え民間バスとの共存を図りながら検討していきたい。



いしぐら りょうた
石倉 稜太さん
(小木中3年)

【質問】 町のPR活動
・全国には能登町のことを知らない人が多い。里山里海の魅力を知ってもらうための施策は。
【町長】 能登の里山里海は景観だけでなく、たくさんの要素がある。まずは町に来てもらい、知ってもらうことが重要。町もPR活動は行っているが、町民ひとりひとりが営業マンという意識も必要。



かなみ
佐賀 香奈美さん
(能都中3年)

【質問】 商店街の活気
・商店街に若者が来なくなるような人気店は誘致できないか。
・イベントの受け皿としてコンサート会場などの設置は。
【町長】 誘客率など条件が厳しく人気店の出店は難しい。イベントは今ある施設を活用。町の未来展望を広げるため、皆さんの意見も参考にしたい。



みう
南 美羽さん
(小木中3年)

【質問】 学校備品の整備
・学校にどのようなICT機器を整備するか。剣道の備品が十分でない。整備方針は。
【町長】 平成22年度にICT機器の大規模な導入を実施した。さらに3年間の実施計画で電子教科書を導入している。剣道の授業時間は年間20時間ほど。基本動作の習得や精神の理解に重点を置いた授業を実施する。



まゆ
濱田 茉優さん
(能都中3年)

【質問】 宇出津病院の施設
・雨や雪の日、病院入り口付近のタイルが滑り危ない。高齢者が多いため、手すり設置など安全対策をとれないか。
【町長】 病院では冬に滑り止めマットや融雪剤を使用し安全対策にあっている。手すりの設置は、通行に支障がないことを確認したうえで、費用や必要性を総合的に検討していく。



きみやす
段 希実康さん
(柳田中3年)

【質問】 若い人を呼び戻す取り組み、高齢者施設の過不足
・高齢の夫婦、単身世帯が多い。若い人を呼び戻す取り組みは。介護が必要になっていくが施設は足りているか。
【町長】 若者定住には雇用の確保が大事。町では新規学卒者、U・Iターン者の給与の一部助成などを行っている。介護施設整備には資金を要する。予防事業などを検討。



はしもと かな
橋本 茜さん
(鵜川中3年)

【質問】 能登の自然を体感できる施設づくり
・自然の中で体験したり休憩したりする施設が少ない。老朽化した施設もある。
【町長】 町には自然にふれあえる施設がたくさんある。町外の人にも能登町でしか体験できないことにふれあってほしい。休憩所の設置や老朽化した施設の改修については検討のうえ、対応する。



まさや
森本 真矢さん
(能都中3年)

【質問】 学校施設利用
・自然エネルギー事業についてどのような考えか。
・通学に使うバス停へのベンチの設置は。
【町長】 町の資源を活用する企業参入には積極的に取り組む。辺田の浜バス停は、中学生の利用者がほとんど。学校から時間をあわせてバスを利用するため、ベンチは設置しない。



もえか
森川 萌香さん
(柳田中3年)

【質問】 のと里山海道の効果
・無料化で交通量が増えた。実際の経済効果は。無料化に伴う悪い影響はないか。
【町長】 5月連休中は赤崎いちご園が予約で埋まったほか、各施設で利用者が3～5割増。消費が拡大するなど産業の活性化が期待できる。ゴミの排出が増えることなどが予想されるが、特に悪い影響はないと考える。



あやね
山口 綾音さん
(鵜川中3年)

【質問】 中学校統合後の跡地
・鵜川中は能都中に統合になる。小学校として利用されるという噂がある。大切な校舎を有効に活用してほしい。
【町長】 これまでの廃校は地域の意見を聞き、地域の活動施設として活用している。小学校としての利用も検討課題だが、建築基準法で小学校と中学校の基準が異なりすぐには活用できない。



まさき
坂口 柁起さん
(松波中3年)

【質問】 環境美化の取り組み
・通学路にはゴミが多い。ボランティアで収集したゴミに対して町はどのように対処するか。
【町長】 町内会や区の清掃活動、サルビアロード整備など、ゴミが捨てにくくなる環境整備に感謝している。ボランティアによる収集ゴミは、事前に連絡があれば無料で回収する。



ひろむ
大島 広夢さん
(能都中3年)

【質問】 あばれ祭、ごいた
・あばれ祭の観光客が減っているように感じるが推移は。「ごいた」の普及振興策は。
【町長】 あばれ祭りは人気が高く、今年は5万人が訪れた。年間を通じて祭りを感じられるような取り組みも必要。ごいた保存会が普及啓発を行い、世界各国に愛好家がいる。町の人がもっと親しめるようにしたい。

4回目となる能登町子ども議会が8月27日、議会庁舎で開催された。町内5中学校から12人の子どもの議員が登場。町の発展を願い、疑問・質問・要望をぶつけた。

子ども議会



石崎 佳々

議長を務めた
石崎圭祐さん
(小木中3年)

議会